

ワケ カタチには理由がある(40)

Shape follows
Function & Taste

～ノースロップP-61Aブラックウィド～



【同じ戦闘機とは思えない大きさ↑】



本機は米国陸軍の双発夜間戦闘機で、戦闘機としてはとても大きな機体でした。全幅は20mもあり、全幅11mの疾風と比べると、その大きさに驚かされます。お腹に20mm機銃を4丁装備して、その攻撃力はとても大きいものでしたが、さらに後期型の機体は、これに加えて背中に12.7mm機銃を4丁連装した回転砲塔を装備しました。この機体は、ノースロップ社として大戦中唯一、実戦機として採用された機体ですが、ノースロップ社を率いるジャック・ノースロップはこの機体で会社経営を安定させる一方、バックヤードではXP-56やXP-79等を試作して、自らの夢である無尾翼機の実現を追い求めていました。なお、この機体、これだけの大型機ながら運動性はとてもよかったようで、決して大型＝大味な飛行機ではありませんでした。太平洋戦線にも投入されており、真っ黒に塗装された機体が沖縄の伊江島(「ちゅらうみ水族館」から沖に見える)の飛行場に駐留し、日本軍の夜間攻撃の防衛に当たってました。

【模型について】

香港のドラゴン(DML)製1/72のインジェクションキットです。新しいキットではありませんが、キッチリとした出来で作りやすいキットです。(中川裕幸 2021年8月・2022年4月改定)